



Title: The Impact of Japan's Soft Lockdown on Depressive Symptoms among Community-Dwelling Older Adults

(地域在住高齢者のうつ症状における日本のソフトロックダウンの影響)

Authors: Shinpei Ikeda, Hiroshi Haga

(池田 晋平 (東京工科大学 講師、桜美林大学老年学総合研究所連携研究員)、
芳賀 博 (佐久大学看護学部看護学科客員教授))

Journal: Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition

掲載年月: 2023 年 5 月

研究概要: 新型コロナウイルス感染症 (以下, COVID-19)の流行の初期段階において, 地域在住高齢者の抑うつ症状に対する外出自粛措置 (ソフトロックダウン) の影響を調査した。2020 年 7 月, 神奈川県綾瀬市に在住する高齢者を対象にアンケートを実施した。1,056 人のサンプルのうち 69.1%が外出自粛を実施し, これらの人々は女性, 前期高齢者, 非労働者, 多くの病気を患っている傾向があった。多変量解析により, 抑うつ症状には, 日中に一人である頻度の増加(OR=1.27),友人や知人との対面接触の減少(OR=0.78),メール・LINE・アプリによる友人・知人との連絡の増加(OR=1.29),そして外出自粛行動 (OR=1.54)が関連していることが明らかになった。

研究背景: COVID-19 は 2019 年 12 月に中国武漢市で感染拡大し, 2020 年 3 月に世界保健機関 (WHO)はパンデミック表明を行ない国際社会に対策強化を呼び掛けた。遡ること 2020 年 4 月, 日本では第一回目の緊急事態宣言 (以下, 緊急事態宣言) を機に, 全国的に外出自粛の措置が講じられた。この国民に行動変容の協力を求めた日本の戦略は「ソフトロックダウン」と称された。この防疫対策が人々の生活や健康にどのような影響を及ぼしたのか, 日本においても事実を追求する必要がある。本研究は, COVID-19 の初期段階で外出自粛を実行した日本の高齢者の実態を明らかにし, 外出自粛がうつ症状へどのように影響しているかを検討した。

研究成果: COVID-19 の流行初期に国民に外出自粛を求めた日本の防疫対策は, 感染減少のスピードを加速させた点で評価されている。しかし, 日本のようなソフトロックダウンという防疫対策を施行したとしても, 高齢者のメンタルヘルスを深刻化させる可能性がある。

社会への影響: 日本では第 7 波の直前の 2022 年 7 月に, 政府が「COVID-19 と併存しつつ平時への移行を慎重に進める」として, 制限緩和へ舵を切っている。そこで人々も徐々に自粛を解き社会生活を再開していくと予想される。高齢者においては, メンタルヘルスへの影響を考慮した健康づくりの方策を検討する必要がある。

専門用語:

ソフトロックダウン: 2020 年 3 月に世界保健機関 (WHO) はパンデミック表明を行ない国際社会に対策強化を呼び掛けた。各国で強制的なロックダウンが施行される中, 国民に行動変容の協力を求めた日本の戦略はソフトロックダウンと称される。

以上